

## 20年前のキスを探して

古保祥

(訳 横田勤)

20年前のある日の夕方、太陽は少しずつ地球の端に沈み、だれかのことを心配して一瞬でも留まるようなことはせず、もう一つの半球のほうに入りこむや眠ってしまった。

失恋したアンリは虫のようにニューヨークの大通りを東西にやみくもに駆け回っていた。今回の失恋は彼にとっては致命傷を与えるほどの痛手であったのだ。彼は狂ったように駆け回ることによって、生きるための一筋の慰めを見い出していたのであるが、周りの人々が彼に与えたのは罵りのことばと無理解であった。というのは、彼が走りながら市場のかなりの商品をひっくり返してしまったからである。自分の利益のことしか頭にない店主には、一人の青年が青春の夢にうなされているのをおもんばかりでやることなどできるはずがなかった。

時間が一分一秒と這いながら、のろのろと虫のように座標軸から離れていた。

アンリはついに、とある路地の入り口にきて立ち止まり、胸ポケットからナイフを取り出し、若い命に決着を付けようと考えた。

失恋した若者が外部からの慰めを得ることがなければ、だいたいは最悪のかたちで生命を軽んじる結果を生み出すだろう。まさにこのような時、路地の向こうから女の泣き声が聞こえてきた。声のほうを見ると、ひとりの若い女が、どうしたらいいのかわからないように辺りを見回していた。危険な目に遭ったようである。

アンリはひとまず自殺するという考えを引っ込めた。若い女のところに駆けつけてみると、彼女が強盗に遭い100ドルを盗られたということがわかった。その金は母親の手術代にあてるものであった。

アンリは何も言わず、胸ポケットから僅かな蓄えを取り出し、すべてを彼女のポケットに押し込んだ。どっちみちこの金は、死にゆく自分にとっては関係のないものだ。取っておいたところで役には立たない。

若い女はこの上なく感激した。そして互いに見つめ合っているうちに、不思議

な感情が二人のあいだにわき起こってきた。

死の淵に立ち懸命にもがいていた若い二人は、抱き合い口づけをかわした。これは説明を要しない素晴らしい古典的なデートの一場面である。二人は自分たちが同じような境遇にあることをすぐに悟り、心通わせ、互いの体で暖を取り合ったのだ。

キスの後、二人ははるか遠くに離れ離れとなった。

ちょっとまばたきをした間に、20年の時が過ぎ去った。

この期間、アンリはずっと励まされ続けていた。自分が最も苦しかったときに、若い女性の香しい芳香を得ることができたのだ。それは神が自分に与えてくれた贈り物なのだと感じていた。失恋し酒びたりになってから三日後、彼は理想に向かって進むことを選択し、生きつづけようと決心した。そして毎日の夜明けを、愛しいと思いながら迎えるようになった。余暇の時間を利用して勉強しある大学に合格した。卒業後は弁護士業に専念した。巡り合わせがうまくいき仕事は順調に進み、20年の間に自分の弁護士事務所を持つことができた。

ところが20年後のある日の早朝、金融危機が全地球に広がった。アンリの弁護士事務所も経営不振となり、その上妻が資産のほとんどを持って逃げてしまった。訴訟を起こしたが時間がかかり、とうとう弁護士事務所は倒産してしまった。彼は再び生死の淵に立たされ、何とかしなければと必死になっていた。

「運命」は変化を続ける。常に人間を弄びながら愛憎悲嘆を与え、そうすることによって己の偉大さと捉えどころのなさを知らしめ、人間を己の前にかしずかせているのだ。

アンリは20年前のあの夕方を思い出した。そして再び死ぬことを考えた。かつての軽はずみな気持ちはとっくに老化しており、もうあの時のように狂ったような激しい感情が起こることはなかった。

彼が心を決しかねていたちょうどその時、新聞で、キスを探しているというお知らせ欄が目にとまった。

20年前のある夕方、一人の若者が彼女に感動的なキスをした。このあと、欠けていた彼女の天空に一本の信念の旗が打ち立てられた。彼が与えた金を使って彼女は母の病を治した。また、この20年の間に彼女は結婚し離婚し再婚し、そしてまた離婚していた。健康であった時もあり病気になって快復したこ

ともあり、そして今、ガンを患っている。時は今日に至り、彼女の所有する富は莫大なものとなっていた。多くの男が彼女の愛を求めてその紅いスカートの前にひざまずいたが、彼女は何と 20 年前のあのキスを覚えていた。あのよう  
に優しくて温かい心を持った人は、頬をなでていく春風のような人、心を潤す  
雨を降らせてくれるような人だ、と彼女は思っていた。もし彼が活着ているの  
なら、そして独身であるならば、彼女はすべての財産をもって嫁ぎ、安らかに  
楽しい晩年を過ごしたいと望んでいた。

アンリの心はずっと落ちつかなかった。あの場の情景は、彼がこれ以上はない  
というほど熟知しているものだった。彼女の人生がこれほど変遷していたとは思  
いもよらなかった。今、彼女はガンを患っている。慰めと励ましを最も必要とし  
ているはずだ。

アンリは一週間考えたあと、きっぱり態度を決めた。そして、歳月を経て古び  
てしまった彼女の家の門を押し開いた。

門の入り口はすでに市いちのような賑わいだった。金融危機で失業した多くの男た  
ちが、欲望を抱いて集まっていたのである。彼らは自分が 20 年前のその物語の  
男ト主役であると言った。「まちがいなく私がその人物である」と、迫真の演技で  
自分が作り上げたその「キス」に関する物語を話して聞かせ、彼女の笑みを得る  
だけで終わった者も何人かいた。

アンリが部屋の中に入っていくと、女が薄いカーテンの向こうに横たわってい  
るのが見えた。彼女は自分の病の状態を見られるたくなかったのだ。

アンリは、自分がいかに軽薄であったか、いかに物事の趣を知らなかったか、  
結婚生活がどれほど不幸であったか、といった身の上話をしはじめた。20 年前  
のあの场景の話も含めて、彼の話の中には吉兆の清らかな光がきらめいていた。

女は呆然とした。そして突然聞いた。

「あなたはあの一ドル札の事を覚えていますか？」

「当然ですよ。その一ドル紙幣のことを、自殺する前にお話ししようと思ってい  
たのです。私はあの時、この世がいやになってもうおさらばしようと思っていま  
した。でもあなたに偶然出会って、新たな希望を見つけたのです。一回のキスが  
私の人生の道を変えたのです。」

手渡された一ドル紙幣は印刷された字やもようが色あせ汚れることがあって

も、愛の発生を妨げることはできない。

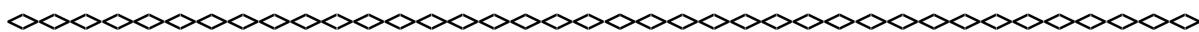
二人は抱き合い心をこめたキスをした。20年前的一幕の古典劇が再現された。

アンリは心を尽くし、力を尽くして女の世話をした。愛情をもって人を励ますとその人の気持ちは明るくなり、回復は早まり治療効果は高まるものである。女は毎日アンリと生活を共にし、新たな希望を見いだした。

20年前、二人ともに困窮し窮地に立たされたとき、一つのキスが互いの心の向きを変え心の扉を開いた。時は決して彼らの愛情を、荒れ果てた無人の異郷に投げ込まなかった。20年後、同じように二人の命に関わる問題が発生したときに「生命」は、歳月は重要な意味を持っているというお話を、そして、望んだその時ではなく遅くなったしまったが、愛のおとぎ話を彼らのために書いてくれたのである。

人は窮地に立ったとき、決して他を恨んではならない。神が間奏曲を一曲あなたにプレゼントし、あなたがこの世における美しい話を醸造するのを手伝ってくれることだろう。

(『中国微型小説排行榜(2012)』百花洲文芸出版社，南昌市，2013，pp. 51-53.)



(中国語原文)

## 寻找 20 年前的一个吻

古保祥

20年前的一个傍晚，夕阳徐徐落在眉梢，没有在哪个人的心事上做片刻停留，便进入另一个半球安歇。

失恋的安乐像虫子一样在纽约的大街上东奔西突，这次失恋对于他来说是致命的，他想要在狂乱的奔跑中找到一丝安慰自己的生机，可周围的人群送来的是谩骂与不解，因为他的奔跑带翻了市场上许多物品。那些唯利是图的商家，哪顾得上一个孩子的青春梦魇。

时间一分一秒地爬过去，像虫子一样驶离自己的坐标。

安乐终于在一个胡同口停了下来，他从怀里掏出了匕首，想结束年轻的生命。

失恋中的孩子，如果失去了外力抚慰，通常会以最恶劣的姿态轻生。

与此同时，胡同的尽头传来了一个女孩的哭泣声。寻声望去，一个女孩正无助地四处张望，似乎遇到了危险。

安乐暂且收敛了自杀的念头。他跑到女孩面前，才知晓，女孩被抢劫了，她丢失了 100 美元，而这些钱，是为了给母亲做手术用的。

安乐二话不说，从怀中掏出了自己仅有的积蓄，尽数塞进女孩的口袋里。反正这些钱对我自己来讲已经是身外之物，留着也没用。

女孩感激不已，两人相视着，奇妙的感觉油然而生。

挣扎在死亡边陲的两个年轻人，相拥着吻了起来。这是一场精彩的不需要下文的经典约会，他们同病相怜，惺惺相惜，在彼此的身上相互取暖。

吻过后，海角天涯，天各一方。

时间眨了一下眼睛，转眼 20 年。

这期间，安乐受到了鼓舞。他觉得在自己最困难的时候，竟然得到了一个姑娘的芳泽，这简直是上帝送给自己的礼物与机会。酗酒三天后，他重新选择了理想，他决心继续生活下去，用爱心迎接每一个黎明。他利用业余时间，考取了一所大学。毕业后，专修了律师专业。机缘巧合，他的事业风生水起，在 20 年的时间里，他有了自己的律师事务所。

20 年后的某一个早晨，金融危机蔓延全球。安乐的律师事务所由于经营不善，加上前妻敛走了他的大部分资产，打官司却漫长无期，他失业了，公司倒闭了，重新挣扎在生死的边缘。

命运无常，时常以捉弄人的方式延续着它的爱恨情愁，供奉着它的伟大与不可捉摸。

安乐想起了 20 年前的那个傍晚，他重新想到了死亡，一颗曾经轻狂的心早已经老化，再也激不起片刻的波澜。

正在他举棋不定之时，在报纸上，他忽然看到了一则《寻吻启事》：20 年前的一个傍晚，一个男孩送给了女孩一个激动人心的吻，从此以后，她原本残缺的天空竟树立起一杆信念的旗。她用他送的钱为母亲治好了病，并且在 20 年的时间里，结婚、离异、再婚、再离、健康、有病、康复、患癌。时至今日，她已经富可敌国，许多

男人愿意在她的石榴裙下接受爱的膜拜，但是，她却一直记得 20 年前的那个旧吻——那样的贴心暖人，就像春风掠过脸颊，想下雨滋润心田。如果他仍然活着，如果他仍然单身，她愿意带着所有的财产嫁过去，寻求一个安乐的晚年。

安乐的心久久难以平静，这一幕场景对他来说再熟悉不过了，没有想到，她的人生竟然充满了变数，如今她已经罹患癌症，她应该最需要安慰与鼓励。

安乐思忖一周时间后，毅然决然地推开了那扇古老而沧桑的大门。

大门口早已经门庭若市，许多在金融危机中失业的男人们，怀着一份充满欲望的心情应征。他们说自己就是 20 年前的那个男主角，有些人竟然信誓旦旦惟妙惟肖地讲述那个自己编制的与吻相关的故事，只不过为博得她的红脸一笑。

安乐走进去时，看到一幕薄纱，女人就卧在纱帐里，她不愿意让人看见自己的病态。

安乐开始讲述自己的故事，自己如何轻薄，如何不知趣，婚姻如何不幸，包括 20 年前的那幕场景在他的讲述下闪着吉祥的清光。

女人怔住了，突然间问道：你还记得那一张美元吗？

当然记得，那张美元上面，是我轻生前要说的话：我看破了红尘，想远离尘世，但遇到了你，让我重新找到了希望，一个吻，改变了我的人生旅程。

一张美元递了出来，斑驳的字迹早已经泛青泛黄，却无法阻碍一段爱情的发生。

两个人相拥在一起，尽情地拥吻着，20 年前的一幕经典重现。

安乐尽心尽力地照顾女人。有了爱情鼓舞的人，心情明快，有助于康复与提高治疗效果。女人每日与安乐生活在一起，重新找到了希望。

20 年前，他们各自面对着困厄的绝境，一个吻，改变了彼此的志向，打开了彼此的心扉，时间并没有将他们的爱情拉入荒无人烟的他乡；20 年后，同样是两个人的生死攸关，生命却重新为他们谱写了一段春秋大义，一段苦求却不给、懈怠则晚矣的爱情童话。

人在绝境的时候，绝不要怨天尤人，上帝会送你一段插曲，让你从此酝酿一段人间佳话。

